

## 二十歳の主張

竹田 知華

本日は、私たちのために盛大な式典を催して頂き、誠にありがとうございます。故郷の西条市で、私の青春を彩ってくれたたくさんの仲間と共にこの場に立てたことを、大変嬉しく思います。

そして、市長をはじめご来賓の方々、ご臨席を賜りました方々に、心よりお礼申し上げます。

今日、二十歳という大きな節目を迎えた私達は、今まで以上に自分の行動に責任を持ち、自分自身の力で成長していかなければならない大人の仲間となりました。

私は大学入学から西条市を離れ、県外で一人暮らしをしています。今まで親に任せていたことを急に自分でやらなければならないという状況に戸惑いを感じつつも、大人になったことを実感しています。大人への仲間入りは、嬉しい気持ちもある反面、私にとっては「まだ子どもでいたい」という少し寂しい気持ちもありました。

大人への仲間入りを果たして感じたことは、大人も子どもと変わらない無邪気な気持ちを持っているけれど、「大人だから」という理由であらゆることを我慢して私たち子どもに接してくれていたということです。子どもの時にたくさん甘やかしてくれた親も親戚も友達のお母さんも、みんな大人だから子供のためにしてあげることが多かったのだろうと、私は感じました。

大人になったことで、私たちはたくさんの場面で、してもらう側ではなく、してあげる側に変わります。私たちは幼いころから、温かくて優しい西条市民の方々に、たくさんのことをしてもらいました。たくさんのことをしてくれた方たちへの感謝を忘れず、今度は、私たちが子供たちにしてあげる番です。西条市の温かい気持ちを繋げていき、私たち大人は、これから自分自身を成長させていきます。

最後になりましたが、今まで育ててくれた家族、たくさんのことを一緒に乗り越えてきた仲間たち、私たちを大きく成長させてくれた西条市にこの場をお借りして感謝申し上げます。責任感を持ち、周りへの感謝を忘れず行動することができる大人になれるよう努力することを約束し、二十歳の主張とさせていただきます。

本日はこのような発言の機会を設けて頂き、誠にありがとうございました。